

2025年4月17日

第1回アセアン・インド地域事務所研究報告会

宿利会長 開会挨拶

皆様、こんにちは。運輸総合研究所会長の宿利正史です。

本日は、新年度を迎え、皆様それぞれにお忙しい中、運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所の第1回目の研究報告会に、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。

運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所、略称 AIRO は、コロナ禍の真っ只中でありました2021年4月に、研究所の2箇所目の海外拠点として、タイ王国バンコクに開設いたしました。

AIRO は、東南アジア地域及び南アジア地域の政府・研究機関・企業など、関係する皆さまと緊密に連携して、これらの地域の運輸・観光分野のニーズを踏まえたきめ細かな活動を行うことにより、当研究所の活動の原点であります「世の中の役に立つ」、「使い物になる」内容・水準の貢献を目指して、日々取り組んでいます。

AIRO の開設からちょうど4年が経過いたしました。東南アジア地域及び南アジア地域はコロナ禍を経て堅調に経済発展を続けており、経済的にもまた地政学的にも、日本にとってその重要性はますます高まっています。

では、本日の報告について、かいつまんでご紹介いたします。

まず、最初のテーマは「高速鉄道」です。2023年10月に、インドネシアのジャカルタ・バンドン間に東南アジア地域で初となる高速鉄道が開業しました。また、現在タイやインドで高速鉄道の整備が進められており、ベトナムやマレーシアにおいても整備に向けて検討が進められています。

私自身、国際高速鉄道協会理事長の立場でもあり、インドの高速鉄道プロジェクトについては、コロナ明け直後の2022年から毎年、スーラト、アーメダバード、サバルマティ、ムンバイと、その主要な建設現場を調査するとともに、今年1月には、インドネシアの高速鉄道に実際に乗車して調査を行ってきました。

これらの国において、安全で信頼性の高い高速鉄道を整備する必要性や意義には確かなものがありますが、難易度が極めて高い高速鉄道という交通インフラを実際にいかに実現するか、そして日本がどのように貢献できるか、乗り越えるべき課題は山積みです。

2つ目のテーマは、「持続可能な観光」です。2023年2月にタイ政府と観光シンポジウムを開催し、その後、更に踏み込んだ議論・検討を行うため、タイのピパット観光・スポーツ大臣との間で観光ワーキンググループを設置することに合意し、これまで4回にわたり日・タイ観光ワーキンググループを開催しています。

2023年10月にはベトナム政府と観光シンポジウムを開催し、その際、ベトナム観光開発調査研究所と当研究所との間で、持続可能性に配慮した質の高い観光の発展に向けた研究協力を進めるためのMOUを締結しました。2024年10月にはこのMOUに基づき、日・ベトナム観光・人的交流ワークショップを東京で開催したところです。

さらに、インドとの関係では、今月8日にデリーにおいて、日本の観光庁とインド観光省の共催で日印観光協議会が開催され、当研究所も招待を受け、AIROから研究成果の一部について講演を行いました。

東南アジア地域及び南アジア地域から日本に来られる観光客は、近年著しく増加していますが、他方でこれら地域の日本人観光客は、コロナ前より減少しています。しかし、本来双方向の人的交流が重要であり、また同時に、地域に根差した観光、地域の文化や伝統、環境への配慮が求められています。すなわち、単なる観光・人的交流の量的拡大ではなく、持続可能性を前提とした、重層的かつ広範な観光・人的交流の拡大こそが重要であると考えています。

3つ目のテーマは、「物流の改善」です。AIRO の設立以来、2023 年度前半まではタイを中心とするいわゆる「陸 ASEAN」の物流改善について研究調査を行い、2023 年度後半からは、フィリピン、インドネシアを中心とするいわゆる「海 ASEAN」の物流改善について研究調査を行っています。

近年のパンデミックやロシアによるウクライナへの軍事侵攻、イスラエル・パレスチナ紛争、紅海におけるフーシ派による商船への攻撃、渇水によるパナマ運河の通航制限などは、世界の社会・経済やサプライチェーンに甚大な影響を及ぼしています。また、台湾海峡の平和と安定は地域・国際社会にとって極めて重要であり、東シナ海・南シナ海での主権を侵害する活動などに対し、日本と東南アジア各国は深刻な懸念を共有しています。

こうしたグローバルな視点で捉えたとき、効率的で、かつ、強靱で安定的な物流の確保は、日本と東南アジア地域の経済・社会の発展と経済安全保障の観点から喫緊の課題であると考えています。

4つ目のテーマは、「道路公共交通」です。東南アジア地域・南アジア地域の大都市では路線バスの利用が盛んである一方で、バイクタクシーやバンコクのトゥクトゥク、マニラのジープニーのように個性的で多様な輸送サービスが提供されています。

また、携帯電話のアプリでこれらのサービスを利用できる様々な「モビリティプラットフォーム」が活用されています。

私も、バンコク中心部でBRTに乗車し、また、マニラではマカティ地区で新たに整備されたバスターミナルや近未来的な都市開発が進むBCG地区のジープニーの現地調査を行いました。東南アジア地域・南アジア地域の各都市が抱える道路公共交通及びモビリティプラットフォームの課題については、日本を含め各国それぞれに、互いに学びあうべきものがあると思っています。

本日はAIROの研究者からの報告を通じて、東南アジア地域及び南アジア地域の交通・観光分野の最新の状況の一端について皆様にお伝えしたいと考えております。また、この機会を通じて、皆様には是非AIROの活動について知っていただき、AIROを活用していただければ幸いです。

当研究所及びAIROは、東南アジア地域及び南アジア地域の皆様との、地に足のついた、継続的かつ重層的な連携と協働を通じて、これらの地域と日本の運輸・観光分野の発展に貢献できるよう、また、日本とこれらの国々との絆がより一層深まるよう努力いたします。

最後になりますが、この場をお借りして、当研究所の活動に対し日頃より手厚くご支援をいただいております日本財団に対し、心から感謝申し上げます。

当研究所といたしましては、本年度も時宜にかなった諸々の活動を通じて、皆様のお役に立てるよう努力いたしますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶といたします。

本日は、多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。